

様

年 月 日

SP（CDDP＋TS-1）療法

この治療では次の2種の治療薬を使用します。

CDDP（シスプラチン）：細胞のDNAや蛋白合成を妨げ効果を現します。

TS-1（ティーエスワン）：細胞のDNAやRNAの合成を妨げ効果を現す。

＜投与スケジュール＞ ・ ・ ・ 5週間が1コース

今回 コース目

＜薬品名＞ ＜投与方法・時間＞	＜薬の作用＞	1コース目				2コース目
		1日目	8日目		21日目	36～70日目
パロセトロン、デキスト、輸液 ＜点滴静注30分＞	吐き気予防	／	／		／	／
輸液 ＜点滴静注120分＞	腎障害予防		／		休業	／
マンニトール20% ＜点滴静注60分＞	利尿剤、腎障害予防		／		休業	／
シスプラチン注 生食250ml 輸液 ＜点滴静注 60分＞	化学療法剤		／		休業	／
輸液 ＜点滴静注120分＞	腎障害予防		／		休業	／
ティーエスワン  内服＜21日間＞ 休業＜14日間＞	化学療法剤				休業	

＜薬剤投与日の注意＞



★ 点滴部位が痛くなったり、腫れたりした場合や点滴が落ちなくなった場合は、薬液が血管外へ漏れていることがありますので、すぐに申し出てください。

★ 薬剤の投与は、血液検査やその他必要な検査を行いながら進めていきます。副作用の発現・合併症の有無によって治療の途中で、薬剤の減量・変更や中止されることがあります。

＜備考＞

<副作用>

副作用と症状	発現時期、頻度	対策	メ　モ
白血球減少 発熱 風邪様症状	１０～１４日後	うがいや手洗い・休養を心がけて下さい。白血球を増やす薬や抗生物質を使うこともあります。	
血小板減少 出血	—	けがや打ち身、歯ぐきからの出血、鼻血などに気をつけて下さい。止血剤を使ったり、輸血をすることもあります。	
貧血 倦怠感 息切れ	—	採血結果によっては、造血剤を使ったり、輸血をすることがあります。	
吐き気・嘔吐	—	我慢せずに吐き気止めを使用してください。	
下痢・腹痛	約３割	水分摂取を心がけて下さい。下痢止めや整腸剤を使用してください。重度の場合は点滴をすることもあります。	
口内炎	４人に１人	うがい薬や塗り薬を使います。	
腎障害	—	水分摂取に心がけ、尿量を多くしてください。	
間質性肺炎、肺障害	非常にまれ	空咳、息切れ、呼吸困難、発熱など。早期発見が大事。	
過敏症（アレルギー） 顔がほてる 息苦しい、胸が苦しい 発疹、かゆみなど	非常にまれ	予防薬を使いますが、症状があればすぐに申し出て下さい。	
白質脳症	非常にまれ	口のもつれ、ふらつき、物忘れなど。早期発見が大事。	
その他：発熱、倦怠感、心障害、視力障害、脱毛、手足症候群など			

- ★ 放射線療法と併用することがあります。その場合はより口内炎やのどの粘膜障害がより強く現れます。うがい薬などを早めに使用し予防に努めてください。
- ★ ここにあげた副作用は、代表的なものです。必ずしもこれらの症状が現れるとは限りません。副作用が現れても、早期に発見、対処すれば、治療の継続が可能です。過剰に心配せず、気になること、調子の悪いことがあれば、医師・薬剤師・看護師に申し出て下さい。